

第一十二類 禮式

第一款 海軍禮式

● 海軍禮式令
大正三年二月十二日
勅令第三十五號

改正 大正四年第一八九號、九年第一八七號、一三年第八號、昭和三年第四五號、九年第三九五號、一二年第一八號、一五年第八九〇號、一六年第九七三號、一七年第六三三號、一八年第九一〇號、一九年第五九號

朕海軍禮式令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍
大臣副署）

海軍禮式令

目次

頁（参考）

第一編 總則	一九一
第二編 敬禮	一九三
第一章 通則	一九三
第二章 各個ノ敬禮	一九四
第一節 室内ノ敬禮	一九四
第二節 室外ノ敬禮	一九六
第三章 艦船ノ敬禮	一九八
第一節 軍艦ノ敬禮	一九八
第二節 短艇ノ敬禮	一〇五
第四章 軍隊ノ敬禮	一一〇

〔海三十二〕

第五章 衛兵及番兵ノ敬禮……………一〇九

第三編 儀式

第一章 遙拜式	一一一
第二章 迎送式及伺候式	一一一
第三章 觀兵式	一一三
第四章 觀艦式	一一三
第五章 觀艦式	一一三
海軍禮式令	

第一編 總則

第一條 海軍軍人艦船及軍隊ノ禮式ニ關シテハ本令ノ定ムル所
官准士官生徒及下士官兵ヲ謂ヒ上官又ハ上級者ト稱スルハ官
ニ依ル

第二條 本令中軍人ト稱スルハ海軍士官特務士官候補生見習尉
等級ノ上ナル者ヲ謂ヒ同級者ト稱スルハ官等級ノ等シキ
者ヲ謂ヒ下官又ハ下級者ト稱スルハ官等級ノ下ナル者ヲ謂
ヒ衛生ト稱スルハ艦船部隊等ノ衛兵ヲ謂ヒ番兵ト稱スルハ衛
兵ノ守所ニ在ル者ヲ謂ヒ軍隊ト稱スルハ武裝スルト否トニ關
セス又人員ノ多少ニ拘ラス隊伍ヲ組ミタル軍人ノ集團ヲ謂ヒ

隊長ト稱スルハ軍隊ヲ引率スル者ヲ謂フ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ候補生ハ高等武官ノ下見習尉官ノ上、見習尉官ハ候補生ノ下准士官ノ上、生徒ハ准士官ノ下下士官ノ上トシ其ノ敬禮ニ關シテハ候補生及見習尉官ハ士官ニ、生徒ハ下士官ニ準ス

第三條 皇后太皇太后皇太后ニ對スル禮式ハ天皇ニ對スル禮式ニ準ス

前項以外ノ皇族ニ對スル禮式ハ公式ノ場合ニ限リ前項ノ規定ニ準ス

第四條 外國ノ元首又ハ皇族ニ對スル禮式ハ公式ノ場合ニ限リ前條ノ規定ニ準ス

第五條 文武官ノ資格ニ於ケル皇族ニ對シテハ本官職相當ノ禮式ヲ行フ外國ノ皇族ニ付亦同シ

第六條 儀式祭典等ニ參與中ノ軍人艦船又ハ軍隊ハ該式典ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外式ノ施行中敬禮又ハ答禮ヲ行フコトナシ但シ恒シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 上官ノ職ヲ執リ又ハ之ヲ代理スル軍人ニ對シテハ其ノ

本官相當ノ禮式ヲ行フヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 天皇ニ屬從スル軍人ハ敬禮ヲ行フコトナシ
職務上皇族又ハ上官ニ隨從スル軍人ハ該皇族又ハ上官カ敬禮スル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ

第九條 儀式其ノ他ニ關スル高等武官ノ席次ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外高等官席次同日同官等任官ノ者ニ在ニ依ル但シ職務ヲ以テスル場合ニ於テハ參謀長ハ當該幕僚中ノ上席ニ、艦船部隊ノ副長ハ當該艦船部隊長ノ次席ニ列ス

候補生ノ席次ハ高等武官ノ次席、見習尉官ノ席次ハ候補生ノ次席トスルノ外前項ノ規定ニ準ス

准士官ノ席次ハ第一項ノ規定ニ準ス

幕僚及司令部附職員ト艦船部隊ノ職員トハ各別ニ序列スルヲ例トス

生徒ノ席次ハ准士官ノ次席トス

第十條 公務上口頭ニテ他ノ軍人ヲ呼フニハ上官タルト下官タルトヲ問ハス其ノ職名ヲ以テシ又ハ氏下ニ官名ヲ附スヘシ但シ兵ヲ呼フニハ單ニ氏ヲ以テス

前項ノ場合ニ於テ面識ナキ上官ニ對スルトキハ先ツ自己ヲ紹介スヘシ

第十一條 軍艦ノ敬禮中號笛又ハ喇叭ヲ以テスル敬禮及水兵舷梯側ニ立ツ敬禮竝短艇及軍隊ノ敬禮ハ特ニ規定アル場合ヲ除

クノ外夜間之ヲ行ハス衛兵ノ敬禮ニ付日没後午前八時前亦同シ

第十二條 陸軍軍人又ハ軍隊ニ對シテハ海軍軍人又ハ軍隊ニ對

スルト同一ノ禮式ヲ行フヘシ

海軍文官又ハ同待遇者ニ對シテハ其ノ官等級相當ノ軍人ニ
對スルト同一ノ禮式ヲ行フヲ禮トス但シ軍隊ノ場合ニ於テハ
隊長ノミ敬禮ヲ行フモノトシ單獨ノ場合ニ於テハ特ニ規定ア
ル場合ヲ除クノ外長劔又ハ捧銃ノ敬禮ヲ行フコトナシ

外國ノ軍人艦船軍隊又ハ文官ニ對シテハ特ニ規定アル場合ヲ
除クノ外我海軍軍人艦船軍隊又ハ文官ニ對スルト同一ノ禮式
ヲ行フヘシ但シ彼我ノ禮式ニ厚薄ノ差ヲ生シ不權衡ト認ムル

場合ニハ帝國ノ威嚴ヲ損セサル限り首席指揮官臨機ノ處置ヲ
爲スコトヲ得

第十三條 儀式祭典等ニ當リ一境域内全般ニ瓦ル禮式ヲ齊一二

シ且必要ナル順序等ヲ定ムルハ左ニ掲タル諸官ノ任トス

一 東京ニ在リテハ海軍大臣

二 鎮守府ヲ置ク地ニ在リテハ鎮守府司令長官

三 警備府ヲ置ク地ニ在リテハ警備府司令長官

四 其ノ他ノ各地ニ在リテハ首席指揮官但シ所在海軍官衙學

校ニ關係アル禮式ハ其ノ長ト協議ノ上之ヲ定ムルヲ例トス
第十四條 受禮者ハ本令ニ依ル禮式ノ一部又ハ全部ヲ辭スルコ
トヲ得

第十五條 艦船ノ構造又ハ其ノ運用上本令ニ依ルコト能ハサル
トキハ適宜之ヲ取捨スルコトヲ得

第十六條 戰時若ハ事變ノ際又ハ演習、教練、作業等ノ場合ニ
在リテハ本令中特ニ規定アルモノノ外海軍大臣ノ定ムル所ニ
依リ本令ニ依ル禮式ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第十七條 海軍豫備員及海軍豫備員候補者ニ關スル禮式竝本令
ニ定ムルモノノ外特別ノ場合ニ行フヘキ禮式ニ付テハ海軍大
臣之ヲ定ム

第二編 敬禮

第一章 通則

第十八條 軍人「君カ代」ノ奏樂又ハ喇叭練習中ノ奏樂 喇叭ヲ除クヲ聞クト

キハ姿勢ヲ正スヘシ

第十九條 勅語勅諭令旨等奉讀ノ際ハ其ノ始終ニ於テ敬禮ヲ行

フヘシ

第二十條 軍人ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同級
者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ
在ラス

同時ニ二人以上ノ上官ニ對スルトキハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外最高級ノ人ノミニ對シ敬禮ヲ行ヒ其ノ最高級ノ人ノミ答禮ヲ行フヲ例トス

敬禮ヲ行フトキハ受禮者ノ答禮畢ルヲ俟チ原姿勢ニ復スルヲ

例トス

第二十一條 官等等級ノ識別困難ナル場合ニ在リテハ上下ヲ論

セス互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第二十二條 軍人各個ノ敬禮ハ面識アル上官ニ對シテハ其ノ服

裝ノ如何ニ關セス之ヲ行フヘシ但シ軍艦ニ於テ號笛ヲ以テスル敬禮ハ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテノミ之ヲ行フ

第二十三條 軍人行進間敬禮ヲ行フトキハ歩調ヲ執ルコトナク トキ除ク速歩ニ於テ之ヲ行フ但シ至急ノ要務ヲ帶フルトキ ハ其ノ旨ヲ告ケ駆歩ノ儘之ヲ行フコトヲ得

第二章 各個ノ敬禮

第一節 室内ノ敬禮

第二十四條 室内ト稱スルハ公室、私室、事務室、會食所、應

接所等ヲ謂フ但シ宮中行在所等ノ廊下、賢所正門内、神前及

祭場ハ總テ室内ニ準ス

第二十五條 室内ノ敬禮ハ先ツ室外ニ於テ脱帽シ室内ニ入り受

禮者又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ對シテ停止正面シ姿勢ヲ正シ

第二十七條 賢所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フヘシ

答禮ノ方法ハ敬禮ニ準ス但シ著席者ノ答禮ハ其ノ儘體ノ上部

ヲ少シク前ニ傾ケ敬禮者ニ注目スルヲ例トス

第二十六條 天皇ニ拜謁スルトキハ先ツ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入リ直ニ敬禮シ更ニ進ミテ玉座ヲ距ルコト約六步ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ畢リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ但シ宮中等ニ於テ特ニ規定アルモノハ之ニ從フ

最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ執リ先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツ外前條第一項ニ同シ

軍艦其ノ他ニ於テ御寫眞ヲ拜スルトキノ敬禮ハ前二項ノ規定

ニ準ス

〔海軍〕

拜禮ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

祭典ニ參列スルトキハ式ノ施行中脱帽スヘシ

第二十八條 軍人上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ距ルコト適宜ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ上官二人以上ナルトキハ先ツ最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スヘシ但シ在室者ニ主客ノ別アルトキハ先ツ主タル者ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ

第二十九條 上官居室ニ來ルトキハ在室者ハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ但シ上官ト應對スル者ヲ除クノ外一旦敬禮ヲ行ヒタル後著席スルコトヲ得

第三十條 同級者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ在室者ハ一旦起立シテ敬禮ヲ行フトシ下級者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ著席ノ儘答禮スルヲ例トス其ノ去ルトキ亦同シ

第三十一條 上官下級者ノ居室ニ入ルトキハ脱帽セサルトキハ舉手注目トシ脱帽スルトキハ注目トス

第三十二條 教練授業又ハ作業中ノ敬禮ハ教官又ハ監督者ノミ之ヲ行フヲ例トス但シ特ニ必要ト認ムルトキハ教官又ハ監督

第二十三類 海軍禮式

者ハ「敬禮」ト呼ヒ在室者ヲシテ起立シテ敬禮ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十三條 軍人室内ニ於テ上官ヨリ位記勳記功記勳章辭令書證書褒狀等ヲ受クルトキハ授與者ヲ距ルコト約三歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後帽ヲ左脇ニ挾ミ適宜前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ左手ヲ副ヘテ披見シ畢テ左手ニ移シ適宜退歩シテ原位置ニ復シ帽ヲ右手ニ移シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第三十四條 軍人室内ニ於テ上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ又ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ前條ノ規定ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スヘシ執銃スルトキハ左手ヲ以テス若受クル所ノ物件其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルモノナルトキハ銃ヲ立て體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副ヘテ披見スヘシ返簡又ハ領證ヲ受クヘキトキハ適宜ノ位置ニ退キ之ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ執銃スルトキハ立銃ノ儘敬禮ヲ行フヲ例トス

第三十五條 軍人室内ニ於テ上官ヨリ命令諭告等ヲ受ケ又ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ第三十三條ノ規定ニ準ス

第三十六條 軍人室内ニ於テ公務ノ應對ヲ爲ストキハ下級者ハ

起立シテ姿勢ヲ正スヘシ但シ上官ノ許可アリタルトキハ著席

スルモ妨ナシ

前ニ傾クヘシ

答禮ノ方法ハ前二項ニ同シ

第三十七條 軍人室内ニ入ルトキハ徐ニ戸ヲ敲キ在室者ノ應答

ヲ得テ後入室スヘシ但シ士官室事務室等ニ於テハ便宜省略ス

ルコトヲ得

第四十一條 拔劍中ノ敬禮ハ天皇ニ對スルトキ又ハ特ニ規定ア

ル場合ニハ長劔ノ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニハ肩劔ニテ姿勢ヲ正シ頭ヲ向ケテ受禮者又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ答禮亦同シ

第三十八條 宴會集會等總テ公會ニ於テ上官ト同席スルトキハ

上官ニ先チテ椅子ニ倚リ食卓ニ就キ食卓ヲ離レ又ハ退去スル

コトナキヲ禮トス

第二節 室外ノ敬禮

第三十九條 室外ト稱スルハ屋外、諸甲板、短艇内、砲臺、砲

塔、通路、廊下等ヲ謂フ

第四十條 室外ノ敬禮ハ舉手注目トス

舉手注目ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ右臂ヲ右斜ニ右前腕及掌ヲ

一線ニ保チ五指ヲ伸シテ之ヲ接シ掌ヲ左方ニ向ケ食指ノ第三

關節ヲ帽ノ右前部又ハ庇ノ右縁ニ當テ頭ヲ向ケテ受禮者ノ目

又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ注目ス但シ兩手ニ物件ヲ携帶シ擔

荷シ其ノ他右手ヲ舉クルコト能ハサルトキハ其ノ儘頭ヲ受禮

者又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ向ケテ注目シ體ノ上部ヲ少シク

目迎目送ハ敬禮中受禮者又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ對シ頭ヲ向ケ注目シ其ノ適宜ノ距離ヲ行進スル間之ヲ繼續スヘシ

捧銃ノ場合ニ於ケル目迎目送ハ銃ノ操作ヲ了リタル後直ニ之ヲ始メ立銃ト共ニ正面ニ復ス立銃又ハ單ニ姿勢ヲ正シテ行フ

場合亦之ニ準ス

下士官兵喇叭ヲ手ニスルトキハ其ノ持方ヲ變スルコトナク前三項ノ規定ニ準シ敬禮スヘシ

〔海軍〕

第四十三條 天皇ニ奏上スルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ敬禮シ適宜ノ距離ニ進ミテ奏上シ之ヲ終リタルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所迄退歩シ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第四十四條 途上ニ於テ行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止^{乘馬ノトキハ其ノ儘、}正面シ車駕約六步前ニ近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ約六步過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

途上ニ於テ皇族ニ遇フトキハ齒簿ヲ用井タルトキハ前項ノ例ニ依リ之ヲ用井サルトキハ上官ニ對スルト同様ノ敬禮ヲ行フヘシ

第四十五條 軍人互ニ行遇ヒ又ハ近傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ受禮者ニ向ケ敬禮ヲ行フヘシ答禮亦同シ

第四十六條 軍人停止シ在ルトキ上官其ノ近傍ヲ通過スルトキハ之ニ面シ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ

第四十七條 軍人停止シ在ル上官ノ許ニ至ルトキハ其ノ上官ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ停止シ敬禮ヲ行フヘシ

第四十八條 兵番兵ノ前ヲ通過スルトキハ之ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第四十九條 軍人上官ノ引率スル軍隊ニ行遇ヒ又ハ其ノ近傍ヲ通過スルトキハ其ノ隊長ニ敬禮ヲ行フヘシ但シ現ニ服務中ノ

儀仗隊ニ對シテハ敬禮ヲ行ハス

第五十條 軍人軍隊ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ隊長ニ答禮スヘシ

第五十一條 軍人途上ニ於テ軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ官職等級ノ如何ヲ問ハス其ノ柩ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第五十二條 軍人乗車馬ニテ上官ニ遇フトキハ其ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ

第五十三條 軍人室外ニ於テ上官ヨリ位記勳記功記勳章辭令書證書褒狀等ヲ受クルトキ、書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ若ハ之ヲ呈スルトキ又ハ命令諭達等ヲ受ケ若ハ陳述ヲ爲ストキハ第四十七條ノ規定ニ依リ敬禮ヲ行フノ外其ノ動作ハ第三十三條乃至第三十五條ノ規定ニ準ス

第五十四條 軍人上官ト同行スルトキハ其ノ左側又ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ嚮導者ハ此ノ限ニ在ラス

軍人舷梯ヲ昇ルトキハ上官ヲ先ニシ降ルトキハ下官ヲ先ニス短艇ヨリ陸岸ニ上ルトキ又ハ陸岸ヨリ短艇ニ降ルトキ亦同シ

第五十五條 敬禮ヲ行フヘキ者受禮者ト遠隔シ在ル場合ト雖其ノ上官タルユトヲ識別スルトキハ必ス敬禮ヲ行フヘシ

ヘシ

第三章 艦船ノ敬禮

第一節 軍艦ノ敬禮

第五十六條 定時ニ於テ軍艦旗ヲ掲揚降下スルトキハ左ノ敬禮ヲ行フヘシ

一 當直將校ハ艦橋ニ在リテ軍艦旗ニ面シテ敬禮ス

二 衛兵(衛兵司令之ヲ指揮ス)ハ後甲板ニ整列シ軍艦旗ニ面シテ捧銃シ

喇叭(軍樂隊在ルトキハ軍樂譜以下之ニ倣フ)「君カ代」一回ヲ吹奏ス

三 番兵ハ軍艦旗ニ面シテ捧銃ス

四 上甲板ニ在ル者ハ軍艦旗ニ面シテ敬禮ス

五 中甲板以下ニ在ル者ハ起立シ姿勢ヲ正ス

戰時若ハ演習中又ハ總員ヲ以テスル教練作業等ノ場合ニ在リ

テハ前項ノ敬禮中衛兵ノ敬禮ハ掌信號兵ノミ整列シ喇叭「君カ代」ヲ吹奏シテ之ニ代フルコトヲ得

附近陸岸ニ在ル者軍艦旗ノ掲揚降下ヲ目撃スルトキハ之ニ面シテ停止シ敬禮ヲ行フヘシ

第五十七條 軍艦初テ軍艦旗ヲ掲揚スルトキハ左ノ敬禮ヲ行フ

第六十條 帝國軍艦外國軍艦ト同所ニ在泊シ定時ノ軍艦旗掲揚降下ニ際シ外國軍艦ニ於テ奏スル我國歌ヲ聞キ又ハ我軍艦ニ

於テ外國ノ國歌ヲ奏スルトキハ上甲板ニ在ル者ハ起立シテ姿

勢ヲ正スヘシ

第六十一條 船舶燈臺等ヨリ軍艦ニ對シ旗章ヲ降下シテ敬禮ヲ行フトキハ軍艦ハ軍艦旗ヲ半ハ降下シテ答禮ヲ行フヘシ

第六十二條 帝國軍艦ニ對シ外國軍艦ヨリ衛兵禮式又ハ奏樂等ヲ爲シテ敬意ヲ表スルトキハ之ニ對シ相當ノ答禮ヲ行フヘシ若事情我ヨリ先ニ衛兵禮式又ハ奏樂等ヲ行フヲ適當ト認ムルトキハ指揮官ハ適宜之ヲ行フコトヲ得

衛兵禮式ハ衛兵(衛兵司令之ヲ指揮ス)後甲板又ハ適宜ノ場所ニ整列シ捧銃シテ之ヲ行フ

第六十三條 天皇軍艦ニ臨御ノトキハ左ノ敬禮ヲ行フヘシ

一 司令長官司令官參謀長艦長及當直將校ハ舷門ニ、他ノ高等武官ハ其ノ舷側後甲板ニ序列シ奉迎ス

二 尉官一名舷梯側ニ在リテ奉迎シ兵曹長一名舷門ニ在リテ號笛ヲ吹ク

三 衛兵(衛兵司令之ヲ指揮ス)ハ其ノ舷又ハ對舷ノ後甲板ニ整列捧銃シ喇叭「君カ代」一回ヲ吹奏ス

四 番兵ハ捧銃ス

五 准士官ハ舷門前部ニ整列ス

六 下士官兵ハ舷側又ハ甲板中部ニ整列ス

七 艦長ハ乘御ノ短艇本艦ニ近接スルトキ祝聲「萬歳」三回以降ノ行フ

ヲ唱ヘシム

第六十四條 還御ノトキハ其ノ敬禮前條ノ規定ニ準ス但シ祝聲

ハ乘御ノ短艇本艦ヲ離レ禮砲ヲ行フ前之ヲ唱ヘシム

第六十五條 軍艦乗御ノ艦船ト遇ヒ又ハ其ノ近傍ニ近ツクトキハ司令長官司令官參謀長艦長副長參謀及當直將校ハ艦橋ニ、

其ノ他ノ高等武官及准士官ハ上甲板ニ在リテ敬禮ヲ行ヒ衛兵(衛兵司令之ヲ指揮ス)及番兵ハ捧銃シ喇叭「君カ代」ヲ吹奏シ下士官兵

ハ舷側ニ整列シ第六十三條ノ規定ニ準シ祝聲ヲ唱フヘシ

前項ノ敬禮ハ乘御ノ艦船本艦ノ右(左)四點ノ所ニ來レルトキ

之ヲ始メ左(右)四點ノ所ニ至リテ之ヲ止ム但シ距離ノ遠近ニ應シ敬禮ノ始終點ヲ適宜變更スルコトヲ得

乘御ノ短艇屢軍艦ノ近傍ヲ通過スル場合ニハ該艦ニ於テハ衛兵(衛兵司令之ヲ指揮ス)及番兵ハ捧銃シ喇叭「君カ代」一回ヲ吹奏シ敬禮ヲ行フノ外他ノ敬禮ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テハ軍艦ハ必要ニ應シ航路ヲ譲リ又ハ速力ヲ加減スヘシ

將校ハ舷門ニ、他ノ高等武官ハ其ノ舷側後甲板ニ序列シ
奉迎ス

第六十六條 乘御ノ短艇ニ於テハ中佐又ハ少佐指揮ヲ掌ルヘシ

二尉官一名舷梯側ニ在リテ奉迎シ兵曹長一名舷門ニ在リテ

第六十七條 乘御ノ艦船ハ答禮ヲ行ハス

號笛ヲ吹ク

第六十八條 第三條第二項ノ皇族公式ニ非スシテ軍艦ニ來艦ノ

トキハ左ノ敬禮ヲ行フヘシ退艦ノトキ亦同シ

第六十九條 軍艦ヲ出入スル文武官ニ對シテハ左ノ敬禮ヲ行フ

一 司令長官司令官參謀長以上ハ旗艦ニ非サルトキ 艦長及當直
ハ奉迎セサルモ妨ナシ

ヘ
シ

- 考
- 七 訪問使タル外國海軍武官ニ對シテハ旗章ノ掲否ニ拘ラス第十四號禮式ニ依ル
 - 八 外國海軍士官ノ出入ニ對シテハ總テ兵曹一名舷門ニ在リテ號笛ヲ吹クヲ例トス
 - 九 特命檢閱使、元帥タル海軍大將、海軍大臣、軍令部總長、侍從武官又ハ東宮武官屢出入スル場合ニハ其ノ最初來艦ノトキ及最後退艦ノトキヲ除クノ外其ノ官等ニ從ヒ將官又ハ士官ニ對スル規定ヲ適用スルヲ例トス
 - 十 侍從武官又ハ東宮武官ニ對シテハ本條ノ敬禮ヲ行フノ外其ノ本官ニ相當スル敬禮ヲ行フ

第七十條 天皇臨御ノ軍艦ニ於テハ第六十八條及第六十九條ノ

敬禮ハ舷門送迎ノ一部ヲ除クノ外之ヲ行ハス

第七十一條 第六十八條ノ場合其ノ他特別ノ場合ニ於テ諸官陸

續出入スルトキハ其ノ主タル者ニ對スル敬禮ヲ除クノ外適宜
敬禮ヲ省略スルコトヲ得

第七十二條 第六十三條、第六十四條及第六十八條並第六十九
條表中第十五號禮式ニ關スル規定ハ官衙部隊學校ニ付之ヲ準
用ス但シ號笛ヲ吹クコトナク祝聲ヲ唱フルコトナシ

第七十三條 特命檢閱使、元帥タル海軍大將、海軍大臣若ハ軍
令部總長公務ヲ帶ヒ又ハ司令長官、司令官若ハ臨時檢閱官檢
閱巡視ノ爲メ官衙部隊學校ニ來リ又ハ之ヲ退去スルトキハ第
六十九條表中第四號禮式又ハ第五號禮式ニ準シ敬禮ヲ行フ
官衙部隊學校ノ長著任ノトキ又ハ解職退去ノトキハ第六十九

條表中第一號禮式ニ準シ敬禮ヲ行フ但シ司令長官、司令官及
部隊長ニ非サル者ニ對シテハ衛兵禮式ヲ行ハス

第七十四條 軍艦ト軍艦又ハ軍艦ト將旗若ハ代將旗ヲ掲ゲタル
短艇ト遇フトキ又ハ之ニ近ヅクトキハ左ノ敬禮ヲ行フベシ

一 將旗又ハ代將旗ヲ掲ゲザル軍艦相互ノ間ニ在リテハ互ニ
喇叭「氣ヲ著ケ」一回ヲ吹キ上甲板ニ在ル者ハ姿勢ヲ正スベ
シ但シ指揮官ガ後任ナル軍艦ヨリ先ジ之ヲ行フ

二 軍艦ハ將旗又ハ代將旗ヲ掲ゲタル軍艦又ハ短艇ニ對シテ
喇叭「氣ヲ著ケ」一回ヲ吹キ上甲板ニ在ル准士官以上ハ之
ニ面シテ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ者ハ姿勢ヲ正シ衛兵（衛兵司
令之ヲ指揮ス）ハ捧銃ヲ行ヒ喇叭「海行カハ」一回ヲ吹奏ス
ベシ但シ當該軍艦ノ旗章掲揚者ガ將旗又ハ代將旗ヲ掲ゲタ

ル軍艦又ハ短艇ノ旗章掲揚者ヨリ後任ナルトキニ限ル

ス

三 前號ノ敬禮ヲ受ケタル軍艦ハ喇叭一氣ヲ著ケニ一回ヲ吹キ

上甲板ニ在ル者ハ敬禮ヲ行ヒタル軍艦ニ面シ姿勢ヲ正スベ

シ

海軍大臣旗ヲ掲ケタル艦船ニ對シテハ將旗ヲ掲ケタル軍艦又

ハ短艇ニ對スルト同様ノ敬禮ヲ行フヘシ答禮亦之ニ準ス

第七十五條 天皇乘御ノ艦船現在スル場所ニ於テハ前條ノ敬禮

ハ之ヲ行ハス

第七十六條 軍艦ハ第六十三條乃至第六十五條ノ場合ノ外左ノ

場合ニ於テ首席指揮官ノ乗艦ニ倣ヒ登舷禮式 總員舷側又ハ上
甲板ニ整列ス

ヲ行フヘシ

一 戰時若ハ事變ニ際シ又ハ遠洋航海等ノ爲出港ノ艦船ヲ見

送ルトキ其ノ他必要ト認ムルトキ

二 登舷禮式ヲ受ケタルトキ

送別又ハ之ニ類スル場合ニ於テ登舷禮式ヲ行フトキハ祝聲ヲ唱ヘ又ハ帽若ハ布片ヲ振リ別意ヲ表スルコトヲ得

第七十七條 軍艦戰時又ハ演習中ハ天皇若ハ外國ノ軍艦ニ對ス

ルトキ又ハ特別ノ場合ヲ除クノ外左ノ敬禮ヲ行ハサルヲ例ト

三 第七十四條ノ敬禮

第七十八條 軍艦及短艇以外ノ艦船ニ付テハ軍艦ニ關スル規定

ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ艦長ニ對スル敬禮ハ特務艦ニ付テ

ハ特務艦長ニ、驅逐艦潛水艦掃海艇又ハ驅潛艇ニ付テハ其ノ

隊ノ司令ニ對シテノミ之ヲ行フ

第七十九條 前條ノ場合ニ於テ驅逐艦潛水艦掃海艇又ハ驅潛艇

天皇乘御ノ艦船ト遇ヒ又ハ其ノ近傍ニ近ツクトキハ總員上甲

板ニ整列シ准士官以上ハ敬禮ヲ行ヒ第六十三條ノ規定ニ準シ

祝聲ヲ唱ヘ（驅逐艦掃海艇又ハ驅潛艇ニ在リテハ尙第六十五

條ノ規定ニ準ジ喇叭「君カ代」吹奏ヲ行フ）海軍大臣旗將旗又

ハ代將旗ヲ掲ケタル艦船ト遇ヒ又ハ其ノ近傍ニ近ツクトキハ

上甲板ニ在ル者ハ姿勢ヲ正シ准士官以上ハ敬禮ヲ行フヘシ

第八十條 第七十四條及前條ノ敬禮ハ編隊ニテ航行シ若ハ出港

入港スルトキ又ハ集團シテ在泊スルトキハ各戦隊毎ニ其ノ首

席指揮官ノ乗艦ニ對シテノミ又ハ其ノ乗艦ノミ之ヲ行ヒ首席指揮官ノ乗艦以外ノ艦船ニ在リテハ海軍大臣旗、將旗又ハ代將旗ヲ掲ゲタル艦船ニ對シテノミ喇叭「氣ヲ著ケ二回ヲ吹キ

席指揮官ノ乗艦ニ對シテノミ又ハ其ノ乗艦ノミ之ヲ行ヒ首席指揮官ノ乗艦以外ノ艦船ニ在リテハ海軍大臣旗、將旗又ハ代將旗ヲ掲ゲタル艦船ニ對シテノミ喇叭「氣ヲ著ケ二回ヲ吹キ

上甲板ニ在ル准士官以上ハ之ニ面シテ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ者ハ姿勢ヲ正スノ外敬禮ヲ行ハザルヲ例トス但シ天皇乗御ノ艦

亦前項ノ規定ヲ準用ス

上甲板ニ在ル准士官以上ハ之ニ面シテ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ者ハ姿勢ヲ正スノ外敬禮ヲ行ハザルヲ例トス但シ天皇乗御ノ艦

亦前項ノ規定ヲ準用ス

第二節 短艇ノ敬禮

第八十一條 短艇ハ乘艇者ノ區分ニ從ヒ左表ニ依リ敬禮ヲ行フ

ヘシ

受禮者	敬禮者	海軍大臣、海軍大將以下准士官以上	下士官兵
員 乘	艇 短	員 乘	艇 短
海軍大臣、海軍大將 以下准士官以上	艇員外下士官兵	艇員 短艇長 短艇指揮	汽走中 汽走中 汽走中 汽走中
艇員 短艇長 短艇指揮	汽走中 汽走中 汽走中 汽走中	短艇長 短艇指揮	汽走中 汽走中 汽走中 汽走中
准士官以上	其ノ儘 座シタル儘姿勢ヲ正シ注目ス	准士官以上	起立敬禮 起立敬禮 起立敬禮 起立敬禮
艇員外下士官兵	同上	艇員外下士官兵	同上
艇員 短艇長	同上	艇員 短艇長	同上 但シ海軍大臣旗將旗又ハ ハ橈ヲ上ク
艇員外下士官兵	同上	艇員 短艇長	同上 但シ海軍大臣旗將旗又ハ ハ橈ヲ上ク

下士官兵		備	短艇	短艇	現狀ノ儘
員	乘		帆走中	汽走中	短艇長ノミ座シタル儘敬禮
一	短艇天皇乗御ノ短艇ニ遇フトキハ該艇ヲ距ルコト約三十米ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒ約十米過去ル迄其ノ姿勢ヲ保チ其ノ他ノ短艇ニ遇フトキハ約十五米ノ所ニ於テ之ヲ行ヒ過去シ迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ但シ進行ヲ止メ又ハ速力ヲ緩ムルヲ危険ト認メタルトキハ進行ヲ繼續スルコトヲ得				
二	櫓艇櫓漕中ハ本表中橈ヲ立テ又ハ上クヘキ場合ニハ操橈ヲ止ムヘシ但シ風波アルトキ又ハ急速ヲ要スルトキハ注目ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得				
三	短艇天幕ヲ張リ起立シ能ハサルトキ又ハ「クラッチ」ヲ備ヘ若ハ橈索ヲ取付ケ在リテ橈ヲ立ツルコト能ハサルトキハ本表中橈ヲ立ツヘキ場合ニ橈ヲ上ケ起立ノ場合ニ坐シタル儀威勢ヲ正シ注目ス櫓艇ニ在リテ多人數乗艇スルトキハ首席者ノミ起立敬禮ス短艇長橈手又ハ橈手ヲ兼メルトキハ特ニ短艇長ノ行フヘキ敬禮ヲ行フコトナシ				
四	短艇停止間ノ敬禮ハ本表ニ準ス但シ櫓艇ニシテ橈ヲ出シ在ルトキハ櫓漕中橈ヲ立ツヘキ場合ニ之ヲ立ツヘシ				
五	短艇他ニ船曳カレ又ハ曳船ヲ爲シ若ハ積荷ヲ爲シタルトキノ敬禮ハ本表ニ準ス但シ速力ヲ變スルコトナク橈又ハ帆ヲ以テスル敬禮ヲ行ハス				
六	短艇指揮ハ相互間ノ敬禮及後任者ノ敬禮ニ對スル答禮ニハ起立セサルモノトス				
七	機動艇ノ艇員ハ敬禮ノ場合ニハ定所ニ起立シ在ルヲ例トス				
八	短艇葬儀ノ列中ニ在ルトキハ天皇ニ遇ヒタル場合ヲ除ケノ外敬禮ヲ行ハス又短艇隊運動、軍裝艇ノ教練及競技中ノ短艇ハ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス				
九	短艇軍人ノ柩ヲ載セタル短艇ニ遇フトキハ死者ノ官職等級ノ如何ヲ問ハス海軍大臣、海軍大將以下准士官以上ノ乗艇ニ在リテハ海軍大臣、海軍大將以下准士官以上ノ部海軍大臣、海軍大將以下准士官以上ノ乗艇ニ在リテハ同部下士官兵ノ欄ニ規定スル敬禮ヲ行フヘシ				
十	短艇ハ上官ノ乗艇ヲ追越サス又ハ之ニ航路ヲ譲ルヲ禮トス但シ急ヲ要スルトキハ此ノ限々在ラス				

考

第八十二條 短艇乗御ノ軍艦ト遇ヒ若ハ其ノ近傍ニ近ヅクトキ、附近陸岸ニ於ケル車駕ニ遇フトキハ前條ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ帆走中ハ大帆ノ「シート」ヲ伸スヘシ
短艇定時軍艦旗ノ掲揚降下ヲ目擊スルトキ亦前項ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

短艇敬禮スヘキ人ノ近傍ニ近ヅクトキ亦前條ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ
短艇員ハ准士官以上ニ對シ起立シテ 天幕ヲ張リタルトキハ座シ 敬禮ヲ行フヘシ

第八十三條 守艇員ハ准士官以上ニ對シ起立シテ 天幕ヲ張リタルトキハ座シ 敬禮ヲ行フヘシ
守艇員ハ本艦ニ於テ「氣ヲ著ケ」ノ號音アルトキハ起立シテ姿勢ヲ正スヘシ

第八十四條 禮砲ヲ受クル者ノ乘艇ハ禮砲施行間進行ヲ停止スヘシ此ノ場合ニ於テハ橈艇ニ在リテハ禮砲ヲ始ムルト同時ニ橈ヲ上ケ終ルト同時ニ進行ヲ始ムルヲ例トス
天皇乗御ノ短艇ハ禮砲ヲ受クル間ト雖進行ヲ停止スルコトナシ

第四章 軍隊ノ敬禮

第八十五條 軍隊ノ敬禮ハ獨立スル分隊、小隊又ハ中隊ニ在リ

第二十三類 海軍禮式

テハ各隊毎ニ、大隊又ハ大隊以上ニ在リテハ停止間ハ大隊每ニ、行進間ハ中隊毎ニ之ヲ行フヲ例トス

軍隊敬禮ヲ爲スニハ停止間ニ在リテハ目迎目送ヲ行ヒ行進間ニ在リテハ歩調ヲ執リ「頭右(左)」ノ號令ニテ受禮者又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ注目シ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

前項ノ目迎目送ハ第四十二條第二項乃至第四項ノ規定ニ準シ「捧ヶ銃」又ハ「頭右(左)」ノ號令ニテ之ヲ始メ「立テ銃」又ハ「直レ」ノ號令ニテ正面ニ復ス此ノ場合ニ於テ拔劍シ在ル者ハ長剣ノ敬禮ヲ行ヒ拔劍シ在ラサル准士官以上ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フ

位置ノ關係ニ依リ目迎目送ヲ爲スコト能ハサルトキハ頭ヲ受禮者又ハ敬禮ヲ受クヘキモノニ向ケ注目ヲ爲スヘシ

第八十六條 天皇ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ停止間ニ在リテハ車駕ノ通路ニ正面シ行進間ニ在リテハ道路ノ一側ニ沿テ停止正面シ著劔捧銃ヲ行ヒ機砲隊員ハ喇叭「君カ代」ヲ吹奏ス
前項ノ敬禮ハ車駕隊列ヨリ約三十步ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ距ルコト約十五歩ノ所ニ至ルマテ其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

汽車ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

教練間臨御アリタルトキハ其ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ喇叭「氣ヲ著ケ」ヲ吹奏セシメ各隊教練ヲ止メ其ノ位置ニ在リテ敬禮ヲ行ヒ該將校ハ車駕ノ許ニ至リ教練ノ次第ヲ奏上ス此ノ場合ニ於テハ勅命アルカ又ハ車駕其ノ場ヲ去ルニ非サレハ教練ヲ始ムヘカラス車駕其ノ場ヲ去ルニ方リテハ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テ軍隊休憩中ナルトキハ先ツ喇叭「氣ヲ著ケ」ヲ吹キ整列セシムヘシ

第八十七條 軍人ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ停止間ニ在リテハ之ニ正面シ立銃ノ儘准士官以上ナルトキハ隊長ハ捧銃ス行進間ニ在リテハ行進ノ儘之ヲ行フ但シ下士官兵ノ引率スル軍隊下士官兵ニ對スルトキハ隊長ノミ敬禮スヘシ

前項ノ敬禮ハ受禮者隊長ヨリ約六歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第八十八條 軍人ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ受禮者隊長ヨリ上級者ナルトキニ限リ之ヲ行フ

第八十九條 勅使ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ第八十七條ノ規定ニ準

シ之ヲ行フ

第九十條 他ノ軍隊ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ第八十七條ノ規定ニ準シ之ヲ行フ

前項ノ敬禮ハ隊長ノ等級下ナル方先ニ之ヲ行ヒ同級ナルトキハ互ニ之ヲ行フヘシ但シ現ニ服務中ノ儀仗隊ニ對シテハ敬禮ヲ行ハス

准士官以上ノ引率スル軍隊下士官兵ノ引率スル軍隊ニ對シテハ隊長ノミ答禮ヲ行フ

第九十一條 軍隊整列シタル衛兵ノ前ヲ通過スルトキハ軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フ但シ下士官兵ノ指揮スル衛兵ニ對シテハ隊長ノミ答禮ヲ行フ

第九十二條 軍隊儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ第八十七條ノ規定ニ準シ枢ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ但シ死者隊長ヨリ下級ナルトキハ隊長ノミ敬禮スヘシ

第九十三條 軍隊拜神ノ禮ハ神前ニ整列シ天皇ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フ但シ喇叭「國ノ鎮メ」靖國神社參拜其ノ他招魂祭ニ於ケル拜禮ニハ「水漬ク屍」一回ヲ吹奏ス

第九十四條 儀式祭典ノ爲其ノ場所ニ整列中ノ軍隊ハ該式典ノ

〔海軍〕

爲ニスルノ外天皇族又ハ勅使ニ對シ敬禮ヲ行フ

長ノミ長劍ノ敬禮ニ準シ指揮杖ヲ以テ敬禮ヲ行フ

前項皇族ニ對スル敬禮ハ公式ニ非サルトキト雖第三條第二項ノ規定ニ準ス

二 奏樂ヲ爲ササルトキハ武裝セサル軍隊ト同一ノ敬禮ヲ行フ

第九十五條 武裝セサル軍隊ノ敬禮ハ武裝シタル軍隊ノ敬禮ニ

準ス但シ隊長ノ敬禮ハ舉手注目トシ拜神ノ場合ヲ除クノ外喇

第百一條 衛兵ノ敬禮ハ軍隊ノ敬禮ニ準ス

叭ヲ吹奏スルコトナシ

第百二條 衛兵ハ第七十二條ノ規定ニ依ル場合ニ於テハ門外又ハ衛舍前ニ整列シ敬禮ヲ行フヘシ

第九十六條 軍隊途步行進間ニ在リテハ天皇ニ對スル場合ヲ除シ隊長ハ長劍ノ敬禮ヲ行フ

第九十七條 軍隊行軍又ハ教練中隊列ヲ解キ休憩シ在ルトキハ
敬禮ヲ行ハサルヲ例トス

第百三條 衛兵ハ其ノ所在ノ門ヲ出入スル軍隊ニ對シテハ門外又ハ衛舍前ニ整列シ第九十條ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ現ニ服務中ノ儀仗隊、下士官兵ノ引率スル軍隊又ハ武裝セ

第九十八條 野外ニ於テ演習實施中ハ軍隊ノ敬禮ハ之ヲ行ハサ
ルヲ例トス

第百四條 衛兵所在ノ門ヲ出入スル准士官以上ニ對シテハ衛兵中最初ニ之ヲ認メタル者「敬禮」ト呼ヒ現在スル者起立シ姿勢ヲ正スヘシ前條但書ノ軍隊ニ對シ亦同シ

第九十九條 軍樂隊ノ敬禮ハ左ノ各號ニ依ル

一 奏樂ヲ爲シ在ルトキハ敬禮ヲ行ハス但シ行進間ハ軍樂隊

第二十三類 海軍禮式

ハ衛舍前ニ整列シ第九十二條ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第一百六條 番兵ノ敬禮ハ其ノ定位置ニ立チ受禮者約六步前ニ來ルトキ之ヲ始メ目迎目送ヲ行ヒ六步過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第一百七條 番兵ハ天皇ニ對シテハ捧銃陸上ニ在リテハ著劍捧銃ノ敬禮ヲ行ヒ准士官以上ニ對シテハ捧銃シ下士官ニ對シテハ立銃シテ姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ兵ヨリ敬禮ヲ受クルトキハ立銃シテ姿勢ヲ正シ答禮ヲ行フヘシ

第一百八條 番兵ハ軍艦驅逐艦潛水艦掃海艇驅潛艇又ハ特務艦ニ對シテハ捧銃ノ敬禮ヲ行ヒ軍隊ニ對シテハ立銃シテ姿勢ヲ正シ其ノ隊長ニ對シテハ前條ノ規定ニ準シ官等ニ相當スル敬禮ヲ行フヘシ

第一百九條 番兵ハ軍人ノ枢ニ對シテハ其ノ官職等級ノ如何ヲ問

ハス捧銃ノ敬禮ヲ行フヘシ

第一百十條 番兵ハ艦船部隊等ノ門ヲ出入スル高等文官ニ對シテ

ハス捧銃ノ敬禮ヲ行フ但シ受禮者ノ身分ヲ知リタルトキニ限ル

第一百十一條 番兵銃ヲ携ヘサルトキハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ

シ

第一百十二條 番兵ハ夜間ト雖受禮者ヲ認識シ得ルトキハ之ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第一百十三條 軍艦ニ於ケル衛兵ノ敬禮ハ第三章ノ定ムル所ニ依ル

第三編 儀式

第一章 儀仗兵

第一百十四條 儀仗トシテ天皇ニ供スル軍隊ヲ儀仗兵ト稱ス特命檢閱使鎮守府司令長官警備府司令長官等ニ供スルモノ亦同シ

第一百十五條 儀仗兵ヲ分テ儀仗隊及儀仗衛兵トス

儀仗隊ハ行在所官廳旅館停車場波止場等ノ間途上ニ整列シ儀仗衛兵ハ行在所又ハ旅館ノ護衛ニ任ス

第一百十六條 儀仗隊ハ左ニ掲クル場合ニ之ヲ供ス

一 天皇艦隊軍隊ノ所在地ニ著御發御ノトキ

二 特命檢閱使其ノ檢閱スヘキ艦隊軍隊ノ所在地ニ著發ノトキ

三 鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官初テ著任シ又ハ解職出發ノトキ

四 其ノ他特ニ命令アルトキ

〔海二十四〕

第一百十七條 儀仗衛兵ハ天皇艦隊軍隊ノ所在地ニ滯御ノ間又ハ

特ニ命令アルトキ之ヲ供ス

第一百十八條 儀仗兵ハ晝夜ノ別ナク何レノ時ト雖之ヲ供ス

第一百十九條 儀仗兵ノ敬禮ハ儀仗隊ニ在リテハ軍隊ノ敬禮法ニ

依ルノ外之ヲ供セラルル將官等ニ對シテハ喇叭「海行カハ」一

回ヲ吹奏シ儀仗衛兵ニ在リテハ衛兵ノ敬禮法ニ依ル但シ天皇

及儀仗兵ヲ供セラルル當該者ニ對シテハ夜間ト雖敬禮ヲ行フ

第一百二十條 服務中ノ儀仗兵ハ天皇ニ供スル場合ニ於テハ天皇

ニ對シテノミ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ之ヲ供セラル

ル當該者ニ對スルノ外天皇皇族又ハ勅使ニ對シ敬禮ヲ行フ

第九十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百二十一條 儀仗兵ノ編制ハ左ノ各號ニ依ル但シ人員此ノ編

制ニ充タサルトキハ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

一 天皇ニ供スル儀仗隊ハ一大隊トシ大佐之ヲ指揮ス

二 特命檢閱使又ハ鎮守府司令長官ニ供スル儀仗隊ハ一中隊

トス

三 警備府司令長官ニ供スル儀仗隊ハ一中隊二小隊ヲ以トス
テ編制ス

第一百十六條第四號ノ場合ニ於ケル儀仗隊ノ編制ハ特ニ之ヲ定

儀仗衛兵ノ人員ハ首席指揮官適宜之ヲ定ム

第一百二十二條 外國ノ艦隊司令長官又ハ獨立艦隊司令官軍艦ニ

テ軍港又ハ要港ニ入港シ公式ニ我司令長官又ハ司令官ヲ訪問ス

ルトキハ一中隊以内ノ儀仗隊ヲ供スルコトヲ得

第一百二十四條 海軍葬儀ニ列スル儀仗隊ニ關シテハ本令ニ定ム

ルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第一百二十三條 儀仗隊ニハ軍樂隊ヲ附スルヲ例トス

第一百二十五條 左ニ掲クル祝祭日等其ノ他特ニ命令アル場合ニ

ハ艦船部隊學校等ニ於テ遙拜式ヲ行フ但シ東京ニ在リテハ生

徒下士官兵ノミ之ヲ行フ

一月一日

元始祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

天長節

秋季皇靈祭

神嘗祭

明治節

新嘗祭

大正天皇祭

靖國神社例祭及合祀祭

第一百二十六條 一月一日紀元節天長節及明治節ニハ艦船ニ於テハ第五十七條ノ規定ニ準シ總員整列シテ宮城ノ方向ニ面シ敬禮ヲ行ヒ畢リテ御寫眞ヲ拜スヘシ部隊學校亦之ニ準ス地方官衙ニ在リテハ御寫眞ノミヲ拜スヘシ

第一百二十七條 前條以外ノ祝祭日等ニハ艦船部隊學校ニ於テハ御寫眞ヲ拜セサル外前條ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ喇叭ハ「國ノ鎮メ」^{靖國神社例祭及合祀祭}ニハ喇叭「水漬ク屍」一回ヲ吹奏ス

第三章 迎送式及伺候式

第一百二十八條 天皇官衙艦船部隊及學校ノ所在地ニ著御發御ノトキハ迎送式及伺候式ヲ行フ特命檢閱使其ノ檢閱スヘキ官衙艦船部隊及學校ノ所在地ニ著發ノトキ又ハ司令長官若ハ司令官初テ著任シ若ハ職ヲ解キ退去スルトキ亦同シ

第一百二十九條 迎送式ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ迎送

者ハ第一號ノ場合ニ於テハ天皇ニ對シテノミ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ之ヲ受クル者ニ對スルノ外第九十四條第二項ノ規定ニ準シ天皇族又ハ勅使ニ對シ敬禮ヲ行フ
一 天皇ニ對シテハ所在准士官以上及約半數ノ下士官兵^{武裝}爲^サ道路ノ側方ニ整列シテ奉迎奉送ス

二 特命檢閱使ニ對シテハ檢閱ヲ受クヘキ所在官衙艦船部隊等ノ准士官以上適宜ノ場所ニ整列シテ迎送ス

三 鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ニ對シテハ所在麾下准士官以上及約半數ノ下士官兵第一號ニ準シ迎送ス

四 艦隊司令長官、獨立艦隊司令官又ハ戰隊司令官ニ對シテハ其ノ旗艦以外ノ麾下ノ各艦長及各艦士官室高等武官、士官次室高等武官、准士官總代各一名其ノ旗艦ニ參集シ對舷ニ整列シテ其ノ旗艦ノ總員ト共ニ迎送ス

海路ニ於テハ前項各號ノ外艦艇若干隻ヲ港外ニ派遣シテ迎送セシムルコトヲ得

第一百三十條 伺候式ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ行フヘシ

一 天皇ニ對シテハ所在高等武官行在所又ハ乘御ノ艦船ニ奉

二 特命檢閱使ニ對シテハ檢閱ヲ受クヘキ所在官衙艦船部隊

等ノ高等武官艦船官廳又ハ旅館ニ伺候ス

三 司令長官又ハ司令官ニ對シテハ所在麾下高等武官旗艦官廳又ハ旅館ニ伺候ス

廳又ハ旅館ニ伺候ス

前項各號ノ場合ニ於テ艦船ニ奉伺シ又ハ伺候スルハ官衙艦船

部隊等ノ長竜將官及幕僚ヲ除クノ外之ヲ省略スルヲ例トス

第一百三十條 迎送式及伺候式ハ天皇ニ對スル場合ヲ除クノ外

晝間之ヲ行フヲ例トス

第一百三十二条 伺候式ハ之ヲ受クル者ノ著後又ハ出發前二十四

時間以内ニ之ヲ行フヲ例トス

第一百三十三条 天皇ニ奉伺スルトキハ拜謁ヲ賜ハル場合ヲ除ク

ノ外掛官ノ指定ニ從ヒ署名簿ニ自己ノ官爵氏名ヲ書シ退出ス

ヘシ

特命檢閱使司令長官又ハ司令官ノ艦船官廳又ハ旅館ニ伺候ス

ルトキハ對謁スルヲ例トス但シ受禮者之ヲ辭スルトキハ官職

氏名ヲ記シタル名刺ヲ出シ其ノ意ヲ通シ退去スヘシ

第一百三十四条 對謁ノ場合ニ於テハ特ニ對話陳述ヲ要スルニ非

サレハ敬禮ヲ行ヒタル後直ニ退去スヘシ

第四章 觀兵式

第一百三十五条 觀兵式ハ特命檢閱使檢閱ノ場合又ハ司令長官若

ハ司令官其ノ指定スル時機ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

觀兵式ヲ閱スル將校ヲ觀閱官ト稱ス

第一百三十六条 觀閱官式場ニ來ル稍前ニ於テ陸戰隊指揮官ハ喇叭

叭「氣ヲ著ケ」ヲ吹奏セシメ大隊長ハ著劍ノ號令ヲ下ス

第一百三十七条 觀閱官臨場スルトキハ陸戰隊指揮官之ヲ迎ヘテ

長劍ノ敬禮ヲ行ヒ喇叭「海行カハ」一回ヲ吹奏セシメ當日出場

シタル總員數ヲ申告ス

第一百三十八条 觀閱官閱兵中及退場ノ際ハ諸隊ハ第八十七條ノ

規定ニ依リ敬禮ヲ行フノ外喇叭「海行カハ」一回ヲ吹奏スヘシ

第五章 觀艦式

第一百三十九條 觀艦式ハ國家ノ大典ニ際シ又ハ大演習等ノ場合

ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

觀艦式ノ舉行ハ勅旨ニ依ル

第一百四十條 親閱ノ當日ハ軍艦驅逐艦掃海艇驅潛艇及特務艦ハ

滿艦飾ヲ、潛水艦ハ艦飾ヲ行ヒ夜間ハ軍艦ニ限リ電燈艦飾ヲ

行フヲ例トス

附 則

本令ハ大正三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍豫備員任用臨時特例ニ依ル海軍豫備員タル少尉候補生ノ席
次ハ見習尉官ノ次席トスルノ外第九條第一項ノ規定ニ準ズ